

207) 啓蟄

まだ田舎暮らしをしていた頃、我輩は結構百姓のような庭いじりが好きで、特に春先は啓蟄の頃ともなると、庭の草花や植木に肥料を与えたり、剪定をしたり、腐葉土を作ったりと忙しい日々を過ごすことが少なくなかったのであります。そんな或る日、庭の椿の根元に小さく穴を掘って、そこに肥料を少しずつ埋めていると、でかいビニールの塊が埋めてあって、これがなかなか掘り返せないのであります。誰だこんな所にビニールの袋なんか捨てた奴は！と思いつつ、ビニール袋の下に手を入れて、エイッとばかりに引っ張ると、ナニやらビニール袋が動くではないですか。ビニール袋が動くはずはないと思ってよくよく見ると、こいつはナニやら奇妙な格好をしている。そこで裏返してさらによく見ると、何とそれはビニール袋ではなかったのであります。形も色も小汚いビニール袋に見えたのでありますが、何とこれはどでかい蝦蟇であります。椿の下の窪地に潜り込んで越冬しているところを掘り起こしてしまったのであります。それにしてもデッカイ蝦蟇をむんずとつかんでしまって、気持ち悪かった。